

山城第一、二組宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌お待ち受け法要厳修の「報告



お待ち受け法要

四月二十五日、山城第一、二組により御遠忌お待ち受け法要が厳修され、約二百名の参詣者がありました。

明年にお迎えする宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を目前にして、熱心にご参詣下さった御門徒の方々から、「宗祖は何を願いとして仏道を歩まれたのか」「宗祖の御遠忌をお迎えするがそもそも御遠忌とは何なのか」を私にご門徒から問われている。そんなお待ち受けの法要でありました。



仏教讃歌をうたう会の皆さん



笑福亭仁智師

鏡池だより

第4号
平成22年(2010年)
7月・8月・9月号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌に念う

その背景にあるもの

私が旭川別院の御門徒さんたちと三年前に「親鸞聖人に触れる旅」を企画させていただき、初回が京都、二回目が越後、本年三回目が関東で、明年はいよいよ御遠忌をお迎えするばかりとなった。

三年間にわたり、ほぼ同じメンバーで「親鸞聖人に触れる旅」を終えた今、私なりに感じた宗祖とは、私とかけ離れたお方ではなく、人として、人間として悩み、苦悩し生きられた人生であり、また多くの方々に支えられた御生涯であったということである。

「人間とは間柄を生きる存在である」という言葉どおり、この私も間柄を生きているにもかかわらず、その間柄を自らの思い・計らいで切ったり、結んだりの操作を繰り返す毎日、悩みや苦悩を持ちながらもそのことを引き受けることをしないで、ごまかしたり、逃げたりの生活をしている。それが私であるということが知らされる機縁となった旅である。

宗祖親鸞聖人のご生涯は、間柄を尽くし、苦悩や悩みを真正面から引き受けられたご生涯であったのではなからうか。そのことを宗祖の御遠忌を明年にお迎えする今、私自身「あなたはどつてしょうか」と宗祖親鸞聖人から問われているように感じられてならない。

三日講聖跡参拝の「報告

五月十八日、三日講恒例の聖跡参拝に、今年は湖西・小浜の蓮如上人ご旧跡二カ寺を参詣しました。

近江今津の泉慶寺では、仏教婦人会の皆様により、蓮如上人の身代わりになって亡くなられたおはつ物語を紙芝居で上演していただき、蓮如上人創建と伝わる小浜の蓮興寺では、上人ご真筆の名号等を拝見しました。



山城第二組坊守研修会開催の「報告



六月四日、山城第二組坊守会主催で、小島幸子先生による「団扇の絵付け」の研修会が開かれ、坊守会・門徒会から三十名余の参加者がありました。

大谷大学水島教授による輪読会開かれる



六月十一日、水島見一教授を主として、高光大船先生がご自坊で出されていた機関紙の輪読会が開かれました。全員で機関紙を輪読し、座談のあとで懇親会を行いました。



分陀利華

「仏法をあるじとし、世間を客人とせよ」
蓮如上人

現在、各方面の皆様方から一方ならぬご厚情を賜り、境内・庭園の整備をさせていただいていることである。

ご来院いただく方々の中で「ずいぶん、きれいになりましたね」というお言葉をいただく、素直に満足してしまう私がいる。師が「力のない者ほど整備をして満足する」と言われていた言葉が、今の私には厳しく響いてくる。

何のための整備かということをおもひ、仏法聴聞をするための整備であることを再確認させられることであるが、そのことはけっして整備ができていないことで満足することではなく、あくまでも「聞法の最前列に我が身をおけ」という師の言葉であるように思われてならない。

「仏法をあるじとし」という蓮如上人のお言葉からも、「世間をあるじ」とし「仏法を客人」として主客転倒している私自身の姿が師の言葉を通して浮き彫りにされたことである。

梅香記

山城第一、二組による
境内・庭園清掃奉仕

四月二十一日、山城第一組、二組のご寺院関係の方々、門徒会の方々約三十名によって、剪定作業が終了した庭園の清掃奉仕をいただいたことである。



少しづつ整備されつつある庭園を見ながら、やがて植栽される木花についての意見を各人が述べられ、皆様が庭園に関心をお持ちいただいていることに責任と喜びを感じずにはおられない思いであった。

境内・庭園整備の近況

翌年に控えた御遠忌の団体参拝受け入れ準備が進められています。

境内では、水漏れがあった鏡池の底を修復し、山門横に掲示板、駐車場入り口には看板と反射ミラーが設置され、玄関前にも夜間に足元が見やすいように外灯が取り付けられました。山門横には新たに看板を設置する準備が整えられています。

主要建物では雨漏りがあった本堂屋根の修復、火災報知器の取り換え工事等が行われました。

庭園では、越境樹木の剪定に始まり、川床の修復、アジサイやサツキの植栽等の整備が進められています。



婚活パーティー(慶縁の集い)

開催の報告



大阪教区瑞興寺住職の清史彦さん、アウンサー川村妙慶さんたちの呼びかけで五月三十日に婚活パーティーが開かれ、男女約四十名の参加がありました。

NHK文化講座開催さる



四月六日NHK神戸、四月十三日NHK京都、四月二十日NHK大阪の主催により、「古寺散策」と題して矢野玄慧先生による講演会が本堂で開催され、多くの参詣者で賑わいました。

法座のご案内

定例法座

講師 岡崎別院輪番

毎月13日 9時半〜11時 味読正信偈
11時〜雑炊の集い

宗祖親鸞聖人の御生涯に学ぶ

講師 大谷大学教授 一楽 眞 師

第3回 8月30日(月) 14時〜16時

朝の法話(暁天講座)

7月25日(日) 7時〜8時半
「後生の一大事」

講師 作家・詩人 青木 新門 師

7月26日(月) 7時〜8時

老病死を見て世の非常を悟る

講師 樹洩陽舎々幹 栖雲 深泥 師

7月27日(火) 7時〜8時
子孫に伝えたい

記憶の中のお念佛

講師 願隆寺住職 小早川 隆紀 師

別院往来

結婚式

四月十一日 新郎 澤村 祐輔
新婦 照山 美紗子



澤村様・照山様
鏡池の前で記念撮影

四月二十四日 新郎 大石 隆洋
新婦 銘形 朱理



大石様・銘形様
記念植樹

四月に二組の方が別院にて仏前結婚式を挙げられました。今後も七月に二組、十月に一組、来年の一月にも一組の結婚式が予定されています。心よりお祝い申し上げます。

こころの人

「三世代一座」

小堀 賢一氏

お仏具の仕事をしていただき、ここ数十年の家庭環境の変化を感じざるを得ません。

核家族が進み家族や親族関係が縮小しました。せいぜい二世代だけの家族構成、個室を持っている、家庭への訪問客は減少、それにより自由でプライバシーが守られるようにはなりませんが、大切なことを失ってしまったように思います。

今、次のことを考え「三世代一座」を提言します。三世代同居が難しいとしても、時には三世代が座することは如何でしょうか。伝統や習慣は親子間だけでは伝わり難いものです。親子の対話は少ないものですが、昔は祖父母がそばにいてくれたものでした。勿論「三世代一座」の要にあつてほしいものがお仏壇です。三世代間であつてこそ時代の変化が見えてくるのです。近づきすぎると霧は見えませんが虹が見えないようなものです。

歌舞伎や宮大工等の世界では、祖父が孫を指導する場面があります。三世代が揃って生存できるのは人類だけといわれています。ほかの動物には見られない祖父母の役割は大切なものではないでしょうか。

(京仏具小堀社長 当別院院議会議員)